





そんなに居る訳ないよなあ、と私の好奇心は葛藤を演じるなかで、必ず戻しに訪れることを条件にコップ一杯分の砂を一時拝借させて頂きました。

帰宅後、砂を乾燥させてワイングラスに入れて先の丸い棒で突きましたが、確かに高い音はするもののキュッキュツとの音感は得られませんでした。そこで札幌から一番近い石狩浜の砂を採取して比較してみました。そうしたらやはり石狩浜の砂よりもイタンキ浜の砂の方が明らかに高い音を発することが確認できました。ちなみにイタンキ浜の鳴き砂は音階の『シ』に相当するとのこと(トリビアでした)。

もしかして、石英粒だけを抽出して水で十分に洗浄すると、もっと歌ってくれるのでしょうか？これは宿題とします。

#### 4. 石狩浜の砂との比較

両者の様相を写真-3 に示します。この写真からもイタンキ浜の方が色調は薄く(石英粒が多い)、粒度も小さい様子が伺えます(グラビア参照)。

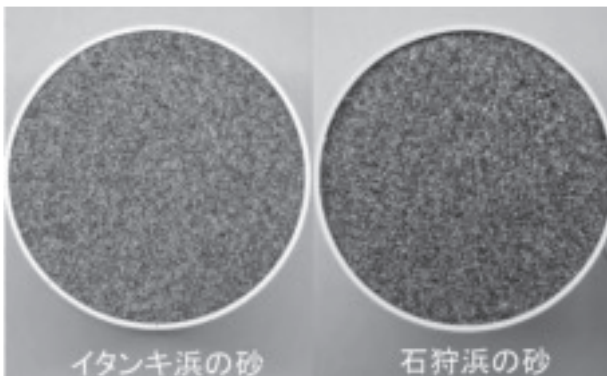


写真-3 両浜の砂の様相(乾燥状態)

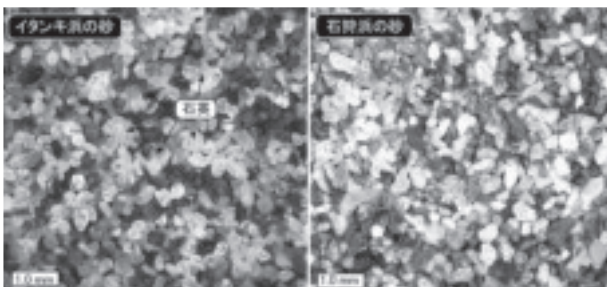


写真-4 両砂の拡大写真

写真-4 の拡大写真からはイタンキ浜の方が透明な石英粒が圧倒的に多いこと、粒子の球形度が良好であることが判ります。ここで石英と言うと六角柱

形状で先尖な鉱物形状との印象がありますが、イタンキ浜の石英粒はβ石英(高温型)と言ってそろばん玉のような形状のものです。これが鳴き砂のツボかかもしれません。ところで、そろばん玉の例えも今の若い人には通じませんね(失敗！)。

帰札後すぐに自宅ガレージで趣味で実施した試験結果を右表に示します。ここで特筆すべきは密度に有意な差が認められ、やはりイタンキ浜の砂の方がより多くの石英粒から構成されることを裏付けています。

表-1 簡単な物性比較

性 状		砂産地	イタンキ浜	石狩浜
色 調	乾燥色(写真-2)	L*a*b	42.8±1.7±6.9	40.2±1.9±7.7
	乾燥色(写真-2)	L*a*b	42.8±1.7±6.9	40.2±1.9±7.7
密 度	乾燥密度	(g/cm <sup>3</sup> )	1.51	1.37
	湿潤密度	(g/cm <sup>3</sup> )	1.98	1.81
粒 度 組 成 (区分重量%)	(mm)	篩	0.0%	0.0%
	2.00	粗砂	0.0%	0.0%
	1.00	粗砂	0.0%	0.0%
	0.50	中粒砂	0.1%	3.8%
	0.25	中粒砂	63.7%	73.0%
	0.125	細粒砂	36.2%	23.2%
	0.063	細粒砂	0.0%	0.0%
	0.0075	粘性土	0.0%	0.0%
	0.0025	粘性土	0.0%	0.0%
	0.00075	粘性土	0.0%	0.0%

#### 5. おわりに

実は私が社会人になった頃、白鳥大橋の地盤調査のため室蘭市には長く通っており、イタンキ浜の鳴き砂の噂は聴いていましたが、実に 30 数年ぶりに念願が叶いました。ただし、今度は天候が良い日を選んで、地団太を踏まぬようリベンジすることになります。今回の砂はその時に返しておきます。

イタンキ浜へは図-1 に示すように登別室蘭 IC から国道 36 号を通過するアプローチが最短ルートですが、少し時間に余裕を持って室蘭 IC まで走って白鳥大橋から鉄の街室蘭の眺望を楽しみ、チキウ岬で海風に吹かれてからイタンキ浜に到達するルートもお勧めです。

最後にお土産として“欽ちゃん走りのボルタ君”絶賛推奨です！

知 本 康 男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)  
基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

